

平成25年2月5日（火）

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会 会員の皆様へ

「近況報告」

節分、立春と暦の上では春の足音が近づいて来ています。大泉農場はここ数日比較的暖かな陽気です。予報によると明日は雪模様、発注した部材待ちで遅れている建築中のハウスの雪対策を今から行います。新しい年もあっという間に一ヶ月が過ぎてしまいました。1月は自然栽培勉強会の総会、25日から27日までは築地で行われた無肥料自然栽培勉強会に参加し忙しい年明けでした。1月23日に開催された総会には山梨県の農政部からもご参加頂き、また総会前に開催された果樹部会の研修会にも果樹試験場の職員の方々3名が参加してくれました。昨年末に横内知事をお願いした自然栽培農法も行政の推進する農政の枠組みとして捉えて頂くことが実現しています。



・木村式自然栽培勉強会@やまなし総会 ・果樹部会研修会（1月23日）

一方、築地での勉強会は北海道から九州までの80軒近い農家が集まり栽培技術の向上と交流を目的とする勉強会です。今年からは流通、飲食関連の業者も参加して裾野が広がっています。自然栽培での農業を目指す若者が半数以上参加していて確実に農業の流れが変化していることを実感できました。参加者の中で一番の高齢者は恐らく小生でしょう。北海道の北見から参加の秋場さんは小生の2歳下ですが40年近く自然栽培に取り組んできています。小生などまだ就農して5年目、ほんの入り口を入ったところです。長い間ご苦労なされた諸先輩から学ぶ機会は有り難いことです。ところで、その場を移動できない植物は自然界の空気、水、土、太陽からエネルギーを頂き、自らの体を育成するデンプン、タンパク質を体内で自家製造しています。肉食動物も草食動物を襲い、内臓から食べると言います。植物以外の生物は人間を含めてこの植物を食べ成長しています。こんな植物の生理を改めて理解すると野菜を無肥料、無農薬での自然栽培することとは我々は「天与の恵みで成長する作物がより素直に

育つ為の介添人」の存在ということになります。大自然の循環に対して謙虚にならざるを得ません。



・問題解決のファシリテーション風景

・交流会（1月25日）

3日間のカリキュラムは17軒の農場がこの一年の栽培実績を発表して参加者との質疑応答を行うというスタイルです。南北に長いこの国では一概に各地で行われている栽培方法がそのまま適用は出来ませんが応用は十分出来ます。充実した3日間でした。交流会の食事は自然栽培野菜を活かした料理、飲み物も自然栽培酒米で醸造した日本酒、ビール等で多くの仲間を得ることが出来ました。



・交流会のご馳走。

この時期農場では苗作りの播種作業とハウスの温度管理の毎日です。この2月2日、3日は第21回の農業実践スクールでした。現在、受講生は東京からの田鎖さん、京都からの南雲さんの2名です。二人が揃うことは仕事の都合上なかなかありませんが第一、第三土日の交互に参加してくれています。今シーズンからは参加しやすいように畑作コース、稲作コース、総合コースとコース分けをして募集します。現在当農場のホームページの作成を進めています。そこでご案内していきますので宜しくお願いします。



踏込み温床作り（2月2日）

今回は田鎖さんが参加、初日は前回のスクールで南雲さんと作った踏込み温床の種火となる堆肥をハウス内の温床に移動し、収集しておいた落葉と米糠、稲藁、野菜の残渣とで温床を完成させました。一週間で醗酵が本格的になり40℃を超える温度になるでしょう。これを育苗に温室として使用するのです。3ヶ月ほどで役割終え、完熟堆肥として或いは2～3年寝かせて育苗土として再利用していきます。電気を使わず自然界の資材で循環型農業、自然栽培の実践です。今年は雪が多く近くでの雑木林で落葉を収集することが出来ませんでした。標高の低い隣町まで収集に出かけました。



八ヶ岳降ろしの強風でマルチは剥がれ苗は霜柱で浮いてしまいます。

本来なら昨年のうちの手当てをするのが忙しさにかまけて玉ねぎの苗には寒さの厳しい環境を強いることになりました。遅きに失した感がありますが保温と強風から守ることが出来るでしょう。



4つの玉ねぎの畝にビニールトンネルを設置しました。（2月3日）

今年は今までに無く寒さが厳しい冬です。播種の時期を10日から2週間ほど遅くしています。無加温のハウスと踏込み温床利用の苗作りはきめ細かな温度管理が必要です。一日でも早く栽培し、収穫しようと人間様の都合で取り組んでも季節に応じた環境が作物には心地良いのでしょうか。今年はじっくり取り組んで生きます。今回は比較的寒さには強いレタス3種、結球レタスの「オリンピック」「チマ・サンチュ」、奈良時代から栽培されているという「白かきちしゃ」を200穴のプラグトレイに各2トレイ播種しました。発芽が楽しみです。順調に行くと3月下旬には畑に定植できます。収穫は5月上旬になるでしょう。これからアブラナ科のキャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、葉物類、3月に入るとトマト類、ナス類、キュウリ、ピーマン等の果菜類と続いていきます。



レタスの播種。（2月3日）

爪楊枝との比較、小さな種です。

以上最近の農場です。ところで昨年のご案内では2月も発送する予定でした。しかし白菜、大根等冬野菜の播種時期の遅れから収穫、保存が出来ず送付することが不可能です。結果的には15回送付する予定が回数は12回でした。2回送れた月は6月、7月だけでした。心よりお詫び申し上げます。但しお米を送った11月、12月は金額的には2回分に相当しますので14回となります。ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

今までの4年間会員の皆様の多大なご協力のお陰で必要とする大型農機具、23馬力のトラクター、4条植えの田植え機、ハーベスタ（脱穀機）等順次整えることが出来ました。勿論中古ですが十分な働きをしてくれます。残念ながら年々確実に体力は落ちてきています。機械化できるところは順次進めて一年でも長く農ある生活を実践し、若者達が農で生活可能なモデルづくりが出来ればと願っています。

今シーズンも栽培技術の向上と適地、適作での新たな品目栽培に努めて参ります。会員の皆様には安全で野菜本来の味を取り戻した固定種野菜を数多く送るよう精進しますので今後も宜しくお願い申し上げます。

追伸

その後15日と18日と雪が降りました。今冬は寒さも厳しく雪も多くいつもの冬とは違います。昨年よりは一ヶ月ほど遅いペースで苗作りに励んでいます。17日には所属する木村式自然販売勉強会@山梨主催の映画会を長坂町で開催しました。自主上映映画、武田鉄矢主演の「降りてゆく生き方」です。自然栽培の実践者木村秋則氏はじめ尊い生き方を実践している200名近い方々のインタビューから生まれた映画です。開発か保存か、拡大か縮小か、損か得か、善か悪か両極の真ん中に流れる「命」の繋がりを思いやることを改めて思い知らされた良い映画でした。機会があれば是非観てください。

八巻珍男

メール yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp

携帯080-3080-3017